



大勢の「高浜人」に親しまれた
言葉の数々がここにある。

“撮っておき” の たかはま

【第2回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

ととときたい(大事にしたい)高浜ことば ～「高浜方言辞典 じゃんだらりん」

日本語は実に多様だ。ある一つの言葉について、住んでいる地域や、人々が生きている年代・世代によって、言い回しが変わることがある。こうした言葉の違いが「方言」だ。

岩月三則さん(春日町)は20代から長年にわたり、文化財保護委員、高浜町誌・市誌編纂委員を務めながら、ノートや紙の切れ端に「高浜ことば」を書き溜めてきた。そして昨年、「アアシク(あのようにしておく)から「ヲバ(～を)まで、3,086語を収めた「高浜方言辞典『じゃんだらりん』」を刊行。「約半分は、明治から昭和を生き抜いた母が使っていた言葉です。方言は使われなくなると消えてしまう。でも、文字に書きとめておけば後世に残る。皆さんからの『こんな言葉もあるよ』という反応がうれしいですね。辞典の刊行は第一歩。情報を集め、多くの人たちとともに充実させていきたい。」と語る。また「方言の醍醐味は、発音・アクセントといった話し言葉が持つ独特の味わい・雰囲気にある。音として残していくことも大切ですね。」とも。86歳の岩月さんの夢は尽きない。

「高浜ことば」には、私たちの先人たちが生きてきた姿、先人たちから引き継がれてきた暮らしや文化が凝縮されている。

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 たかはま

編集・発行／高浜市役所地域政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2

TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110

<http://www.city.takahama.lg.jp/>

電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

表紙

つなぐタスキに熱い想いを! ～第1回高浜市民駅伝大会

「走ることの楽しさ」とおして市民同士のつながりを深めていこうと、12月22日に、記念すべき第1回大会が、流作グラウンド周辺コースを舞台に開催されました。

4人が1組となり、小学生・中学生・ファミリー一般の部に全58チームが出場。最年少は8歳、最高齢は66歳。「みんなで楽しく走ろう!」の合言葉どおり、お互いのチームに声援を送りつつ、各々のタスキに想いを込め、寒さを吹き飛ばすような元気いっぱいの熱いレースが繰り広げられました。



広報たかはまは植物油インキを使用しています。